

第7回中部電力原子力安全向上会議アドバイザリーボード 議事要旨

1. 日 時：2017年7月21日（金）13時30分～15時30分
2. 場 所：中部電力本店内会議室
3. 出席者：＜社外委員＞小林委員、服部委員、松下委員、吉川委員
＜社内委員＞勝野社長、増田副社長、松浦副社長、片岡副社長、倉田副社長
三澤専務
(経営考査室長、広報部長、原子力部長、グループ経営戦略本部部長等同席)

4. 議事要旨

「安全性向上に係る取り組み状況」「2016年度下半期監査結果」「安全性向上の観点から当社が目指す方向性」「リスクコミュニケーションの取り組み」を当社より説明。多岐に渡る議論がなされた。

社外委員からの主な意見は以下のとおり。

(1) 安全性向上に係る取り組み状況・2016年度下半期監査結果

- 今いる人材の能力に適合するように仕事のやり方（ルール）を変えていかないと、ヒューマンエラーを減らすことはできない。具体的なルールを課していないと、手を抜いたり、知識不足を招いたりするため、ヒューマンエラーにつながる。
- 「気づく力の低下」とあるが、もともと気づく力があつた人の能力が低下したのか、運転経験のない若い人が増えてきて研修だけでは能力を維持できないということなのか、どちらかいずれにせよ、停止期間が長引いている影響が出ていると思った。
- 現場の人は、目の前の仕事をマニュアルどおりに行うことに注力するため、PDCAを回すにはもう少し大きな視点がないと難しいのではないかと。エネルギー供給を担っているという大きな意識付けも必要だと思う。
- ルールを理解してもらうためのポイントとして、「なぜそのようなルールとなっているのか」を考えさせることが重要ではないか。私も、マニュアルを月1回読み直すことで、毎回新たな気づきを得ていた。
- どの業界でも起こり得るエラーのほとんどに、基本・確認の徹底不足が関与している。基本・確認の徹底には5つの原則がある。「基本・確認を怠った場合の怖さを教える」「なぜそのルールなのかを教える」「まず上司・先輩自身がルールを順守する」「部下・後輩がルールを順守していれば褒めてやり、人事的評価を与える」「『早くやれ』ではなく『確実にやれ』と指示する」。
- 安全対策への永遠の課題はヒューマンエラーだと思う。未然防止対策として、ヒューマンエラーを誘発する要因（スレット）を洗い出して排除する、排除できなければそれを意識した取り組みを泥臭くやることが重要である。
- 監査にあたっては、ルールを守っているかを確認することも重要だが、ルールが合っているかを確認する監査も必要である。

(2) 安全性向上の観点から当社が目指す方向性・リスクコミュニケーションの取り組み

- まずは、「知る・聞く」が大事。原子力に対してなぜ反対なのかを知らなければならぬと思う。さらに、原子力のようなエネルギー問題は、自ら知って考えていかなくてはいけない問題でもあるのではないか。
- 意見交換会が活発に行われている市や自治会の取り組みが広く PR されると、他の市や自治会がもっと自発的にリスクコミュニケーションに取り組む流れができるかもしれない。
- 問題提起型の DVD については、学習教材として活用できるのでは。中電では出前教室の取り組みをされているので、そこに踏み込んで活用してみてもどうか。
- DVD については、導入としてはわかりやすく作られており、良いと思う。これくらいの易しさで、浜岡の現状や、放射線について、作成できないか。
- 次回、DVD をリバイスする機会があれば、地球温暖化による影響にジェット気流の蛇行の影響による局所的豪雨災害のことを加えてはどうか。災害を防ぐために温暖化を止める必要があるという事実を伝えてほしい。

以 上